

## 令和7年度 大阪府立光陽支援学校 第2回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	川村 典子

開催日時	令和7年12月8日(月)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	平賀 健太郎(副会長) 永野 信男(委員) 鎌倉 義雄(委員) 溝口 有香子(委員)
出席者(学校)	川村 典子(校長) 道前 光司(事務長) 藤原 博之(教頭) 西山 三穂子(教頭) 竹内 成江(首席) 藤原 克行(首席) 赤星 哲也(首席) 菊池 亮輔(首席) 佐藤 薫(指導教諭/病弱部主事) 綱中 有里(指導栄養教諭) 澤 綾子(指導養護教諭) 内原 菜希(小学部主事) 佐々木 敦子(中学部主事) 上田 康司(高等部主事)
傍聴者	なし
協議資料	下記議題関係資料
備考	

議題等(次第順)
(1) 校長挨拶
(2) 「授業アンケート」結果について
(3) 教科書選定 報告
(4) 「学校経営計画」の進捗状況について
(5) 意見交換
(6) その他・次回連絡 令和7年度 第3回学校運営協議会(令和8年2月12日(木)実施) ・「学校経営計画及び学校評価」達成状況 ・次年度「学校経営計画」について ・「学校教育自己診断」分析について
(7) 教頭挨拶
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
(1) 校長挨拶 暑かった夏が過ぎ、急に寒さが本格的な冬が来て12月半ば、その中で感染症が流行しているが、本校では大きな感染拡大は防ぐことができている。2学期は修学旅行や学習発表会などの学校行事が沢山あったが、無事に終えることができた。 本日は、学校経営計画等の進捗状況の報告・共有について、感想やご意見を賜りたい。

## (2) 「授業アンケート」結果について(事務局報告)

※資料訂正 令和6年度 → 令和7年度

### ○実施のねらい

本校の児童生徒にとって「学びのある授業」を実現するため、教職員間での授業改善に加えて、保護者や学校運営協議会等からの意見も積極的に取り入れ、多角的に授業改善を行うため、保護者による「授業アンケート」を実施する。

### ○Ⅰ学期の結果報告

・提出状況は別紙の通り、小学部では60%である提出率が中学部・高等部では20%台と大幅に低くなってしまい、平均すると43%となっている。アンケートは参観後の授業に関する①と、日常の学校生活や連絡帳のやり取りに関する②に分かれており、集計結果としては肯定的なご意見が多い。病弱部については授業参観を実施していないため、アンケート②に限られる。自由記述欄も同様に肯定的な意見が多くみられるが、お寄せいただいたご意見を真摯に受け止め、今後の教育活動につなげていきたい。

### ○提出率の向上にむけて

・今年度、紙媒体での実施から Google フォームでの回答に切り替えたことが、提出率が低い一因となっている可能性がある。デジタル化の過渡期とすると、Google フォームでの実施が定着するまでは紙媒体との同時使用や、フォームの使用方法の案内なども徹底する必要があると考えている。

・その他の対策としては、授業参観終わりに教員が保護者に対してアンケート実施について協力をお願いしたり、掲示物等で呼びかけたりする方法などを検討しなければならない。

## (3) 教科書選定 報告(事務局 報告)

・去年は一覧をお示したが今年は現物を提示。触ってわかる絵本や手遊びの絵本等について、実際に手に取り見ていただいた。高等部は準ずる課程の生徒が在籍しないため購入していない。

・定番のものや最近流行しているものなど、横断的な学習に使用できる教科書等を採択している。

## (4) 「学校経営計画」の進捗状況について

学校経営計画の項目に沿って、進捗状況を報告する。

### I. 安全安心力の向上

#### (1)人権尊重の教育推進

・全校研修を、えんぱわめんと堺 代表理事を講師に「安心できる人間関係を築く」というテーマで12月25日に実施する予定である。

・学年会等において、人権に関する振り返りに取り組んでいる

#### (2)心身の健康を守る教育の推進

・ヒヤリ・ハットの報告件数は、現時点で7~8件／月である。

・医療的ケアに関する研修会を大阪発達総合療育センターの医師を講師に、7月24日に実施した。

基礎的な内容に加えて、事例に基づくワークショップ形式の研修によって学びを深めた。

#### (3)危機管理体制の強化

- ・引継ぎ訓練を11月26日実施、今回は教員によるシミュレーション訓練だったが、次年度は保護者とともにに行いたい。
- ・避難訓練の見直し、災害時の医ケア対応などは今後の課題である
- ・地域関係者との連携会議に管理職が参加し、地域とのつながり作りに努めている。

## 2. 授業実践力の向上

### (1) 個のニーズの実現

- ・8月28日 キャリアプランニングマトリックスの授業への導入についての研修を実施した。
- ・各学部で授業を振り返る研修を2回、実施した。
- ・新校務支援システムへの移行に取り組んでいる。

### (2) 質の高い授業実践

- ・授業参観週間を学部ごとに実施した。見学者は各週につき約25名(延べ人数)である。
- ・10年経験者研修等を地域に公開、地域の小学校より毎回複数の教員が参観され、授業者へのフィードバックもいただいた。
- ・病弱部門担当教員は7月に行われた大阪教育大附属小学校の授業公開に多数参加し、授業の方法などについて学んだ。

### (3) 自立活動の充実

- ・7月23日に大阪市立総合医療センターの医師による研修を実施した。
- ・9月2日に福祉医療人材のPTによる研修実施を実施した。

## 3. 組織力の向上

### ・教職員の専門性向上

光陽研修ライブラリの活用を推進している

### ・教職員働き方改革推進

会議後の会議資料閲覧をオンラインで行うシステムへの改革、保護者あて文書の電子化と、ペーパーレス化を進めており、少しは業務軽減になっているかと思う。

## 4. 発信力の向上

### (1) 交流および共同学習の充実

・交流校に対して、交流の前には毎回必ず出前授業を実施し、本校の児童生徒についての理解促進を図っている。

・旭東中学校の生徒が来校し、職場体験実習を実施した。

### (2) 地域に開かれた学校作り、センター的機能の発揮

・夏季休業期間に公開研修を実施し、地域の小学校の先生方に多数参加いただいた。

・「光陽 GoGo フェスティバル」の実施計画を検討中である。

### (3) 実践や教育活動の積極的発信

・肢体不自由部門は「ボッチャ甲子園」で全国ベスト4と健闘した。

・病弱部門は「絵画コンクール」「ロボットプログラミング選手権」に参加、絵画コンクールでは受賞した。

次に、学校経営計画に記載していないが、校長として取り組んでいることの進捗を報告する。

① 教師力の向上

職員会議の約15分間を使って、教育に関する「学びの共有」を、1学期は校長が行ったが、2学期からは教員によって行っている。

② 特別支援教育の専門性の向上

・授業改善として、2学期から校長が授業見学を行い、毎回、授業者にフィードバックしている。校長のメッセージに対して、教員からのレスポンスを受けることもある。

・「病弱部門のグランド・デザイン」の作成を進めている（下記参照）

・9月より、本校ホームページにて校長ブログを週1回発信している

○病弱部グランドデザインについて

・全校の光陽グランドデザインについては令和2年度から3年計画で作成。病弱部の教員も各学部のワークに参加し、肢体部門と病弱部門を併せた形で作成した。その中で、病弱教育の独自性に焦点を当て、「各学部で育てたい力」をアップデートすることになり、3部構成によって協議・作成にあたった。

1部：指導教諭の講話 → 2部：個人ワーク → 3部：グループワーク

・5つの「育てたい力、大切にしたい力」について検討協議をする中で、それぞれの部署の実情を共有し、互いの考えを尊重し合う活発な意見交換となり、改めて「病弱教育」について話し合う貴重な教員間の交流の機会となった。

・病弱部に在籍する生徒は、「入院」という特殊な環境において様々な喪失体験をする中で、日々変化する自分や環境と向き合う。安心→信頼→安定という、心理的な段階を踏んだ指導、支援で成長を目指す必要性がある。

○さくらホールでの学習発表会、訪問教育

各学年の生徒たちが、緊張しながらも調べたことや練習したことについて、一生懸命に発表していた。

訪問教育では通信機器を使用し、病室から原籍校の全校行事に参加する様子を見ていただいた。訪問教育はマンツーマンでの指導となるので、子どもたち同士の関りが少なくなるため、原籍校との繋がりを大切にしている。

○ボッチャ甲子園、オールケア旭との交流の報告

東京で行われたボッチャ甲子園について、試合の様子を報告。

（5）意見交換

下記記載

（6）その他・次回連絡

令和7年度 第3回学校運営協議会（令和8年2月12日（木）実施）

・「学校経営計画及び学校評価」達成状況

・次年度「学校経営計画」について

・「学校教育自己診断」分析について

令和7年度 卒業式日程

高等部:3月5日(木)

小中学部:3月10日(火)

(7) 教頭挨拶

いただいたご意見を本年度の教育活動に活かして、子どもたちにとって有意義な時間を提供していきたい。

委員からの意見の概要

○「授業アンケート」について

- ・アンケートが記名式というのも、提出率の低さに関係していると思われる。心理的に記名式だとネガティブな意見は書きにくくなる。
- ・回答することに対するメリットや意義を、保護者に伝えることも重要である。その内容が運営協議会等の場で共有され、学校の在り方に反映されていくということを含め、授業アンケートの重要性への理解を深めたい。
- ・PTAとして、LINE等を通じて、学年代表等の保護者に連絡し、回答を促すことはできるかもしれない。

○「学校経営計画」の進捗状況について

- ・教育実践、教師力の向上に関して、職員会議後の教員による講習ではどのような内容を学んでいるのか興味をもった。

→教材教具の工夫(身近なもので出来る、生徒それぞれに適した教材の準備)や、ピアジェの発達理論に基づく学びについて

- ・組織力の向上に関して、昨年の光陽 GOGO フェスティバルで視線入力のゲームを体験し技、その術に驚いた。性能が日々進歩していくであろう中で、授業に活用できるのではないかと感じている。肢体不自由の生徒が視線入力等の機器を日ごろどのように使用しているか。その実態や成果について知りたいと思った。

→主に自立活動において、卒後の余暇活動等につながるアプリなどを使用している。

- ・支援学校に対して、地域や福祉がどのような応援ができるかについて日々考えている。防災ひとつをとっても、先生方がどれ程大変な思いであるか、容易に想像がつく大切なことは「つながり」であり、様々な状況を想定しながら、地域や教員、保護者等も含めて日ごろからの関りを深め、コミュニケーションを取ることが大切である。何か具体化していきたい。自分たちができるを考えていきたい。そのために GOGO フェスなどの学校行事や学校運営協議会など、地域と学校とが連携協働する環境を日ごろから設定することが大切である。そのうえで、相互に意見や要望を伝え合えるような関係性を築いていきたい。

- ・病弱教育について、病弱部に通う生徒は退院後地域の学校に帰る。その中で、教員が地域の学校の教育に触れることには大変価値がある。教育環境においては急速に多様化しており、人の価値観にも変化がある。地域の子どもたちがどのような教育を受けているかを知ることは重要であり、地域の学校の方が支援学校を見学されることも同じく大切である。インクルーシブ教育推進の中で障がいの有無に関わらず、一人ひとりのニーズに応えるためにも、相互交流というものが今の時代にあった形である。

次回の会議日程	
日時	令和8年2月12日(木)予定
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室